

て青年の思想の變つてゐるに驚いて、その救済として維新前の固定せる精神にかへさうとするは出来ない事である。可能であるとしても、思想は社會の進歩と順應するもので、これは人類文化の一大法則である。この事情を知つて、殊に教育家たる者は教育家として青年の指導の任に當る者は宜しく一見識を以つて、この續生して止まぬ新しい意見を巧みに取り扱ふやうに準備しておかねばならぬ。之が將來の教育家の最も勉むべき一大任務である。文科は思想に直接の關係があるから、之が準備をなすには文科の生徒諸子に大に希待するのである。獨り教場に於てのみでなく、文科會の自由研究に於てもなさねばならぬ。しかるに、文科會は聞く處によるとあまり振はぬといふ事である。之は甚だ惜むべき事であるから、將來は奮發してその進歩をはからねばならぬ。(文責在記者)

獨創的精神の保姆地

内ケ崎先生

文科會で何かお話をせよと下田先生からの御話で、獨創的精神の保姆地と云ふ題を出した。源泉とか、根源とか云ふ題を出しても良いが婦人方の學校であるから、保姆地としたのである。

獨創的精神と云ふ事は、現今教育會の問題となつてゐる。教育調査會の有志者が、人心歸一案とか統一案とか云ふものを發表し、國體の大義を鮮明にするに云ふが中に、獨創的精神と云ふ事を書いてある、其説明は充分でない。獨創的精神の開發と云ふ事は、近來痛切に感ずるやうになつて、殊に、歐洲大戰亂以來歐米に於て、その傾向は旺盛に、表はれてゐる。例へば英國には陸軍の常備が殆どなく、義友兵制度であつた。然るに英獨開戦の時常備兵が凡六百位であつたので、フレンチ將軍がベルギー及び獨逸北部に入つた時には、ドイツの將軍が輕蔑したが、それが瞬く間に百萬となり、四五百萬に達した。米國は從來陸軍は弱いので馬鹿にされてゐたが、ウエルソンの決斷により、俄に陸軍が出来た。寺内首相があれを評して兵士が出来たのは良いが、士官は誰に命ずるか云つた。然るに大學生を養成して半年度で士官に仕上げたと云ふ。米軍の参加は日尙淺く、戦線の距離も短かく陸軍の眞價を發揮することが出来る前に終結してしまつた、從て正當の批評を下す事は出来ないが、大學生を教育して相當な士官ができた云ふ事は認めなければならぬ。これは獨創的精神があるからである。

フオーア、ミニツマン、即ち四分間の人と云ふものがあつた。五百人ばかりの政治家教育家から成立してゐ

て、ウキルソンの意見を代表して米國の國際的問題、食糧問題、其他戰爭に關して起つた問題を四分間で話す人達なのである。それはホテルや教會や或は四辻、劇外料理屋など其他到る所一寸人の會合するやうな場所で話すのである。短時間だから始めから要點に入る、また誰でも聞くので大統領の意志が徹底したのであるかゝる事は日本人には思ひも付かぬ事である。教育調査會でもこんな事をしたら良いと思ふ。唯新聞で意見を發表した位で人心の統一ができると思ふのはお目出度い話である。第一流の人々を集めた處にさへ獨創的精神がなくてゐながら、これを國民全體に求めるのは無理な注文である。明治初年の教育制度は西洋文明に接觸しそれに對して競争せねばならぬので、政府の當局者が西洋文明を眞似したがそれにしてもやはり獨創的精神がなければ出来ない事である。今日の教育は日本教育の中心の先覺者の獨創的精神によつてこれ迄に發達したのである。其獨創的精神が如何にして起つたかを考察する事は大いに參考になる事である。明治初年に發布された五ヶ條の御誓文を見ると「舊來の陋習を破り天地の公道に基くべし。」「廣く會議を起し萬機公論に決すべし。」「知識を世界に求め大いに皇基を振起すべし」とあるがこの中には根本的精神が動いて居る。明治大正に互つて詔勅は多く下つたがこれが最も雄大な精神を含んでゐる。五ヶ條の御誓文は古今東西に照し、中外に施して誤らざる獨創的精神を含む。何故あの當時かゝる精神が起つたかと云ふに、封建時代が愈末期になり、西洋文明の壓迫があり、それまでは狭い東國のであつたが俄に外の文明にふれて彼と此とを比較して材料が豊富になり、虚心坦懷に比較したが故に獨創的精神が起つた。明治維新の政府に立つた人は皆英米に行つた人である。森有禮、伊藤博文の如きは英にも米にも行つた。其他薩長土肥の有力な地方から留學生が行き、それが見聞を廣めて歸朝して、漸く獨創的精神を發揮した、今日でも廢物利用展覽會改

良服などと云つて研究するのも皆獨創的精神の働だ。しかし今度の戰爭により、英米に起つたものに比すると、遙に劣つてゐる。故に大に奮起せねばならぬ。歴史上の例を引くと、世界人類の歴史、中歐の歴史を考へると希臘より猶太、羅馬に文明が傳はり遂に近代文明に至り、科學の發達を見るに至つた。近代の獨創的精神は紀元前六世紀の頃希臘に動いた。何故動いたかと云ふに希臘人の先祖が北方より移住したのは三千年前だが、それが北から希臘に入り、小亞細亞に行き、多島海に行き地中海にも行つた。この以前に埃及の文明があつた。紀元前三千年に太陽暦が行はれたと云ふから餘程古い。それは砂漠にかこまれてナイル河が南北に貫通して、年に一二度氾濫し爲に土地が肥える。其處に人間が集り文明が發達する。三面砂漠で一方は海であるから侵略するものがなく安全である。バビロンも同様の理由の下に發達した。チグリスユーフラト河の間に住して波斯灣には航海が行はれずまはりに砂漠がある。それがペルシャに移るに至り、航海が行はれ猶太が發達せんとする時、希臘人が頭を擡げた。希臘は最初に獨創的精神の呱呱の聲をあげた。希臘の地方で最も早いのはアイオニヤ地方で埃及から小亞細亞の西海岸ヘレスポンド海峽を経て此に至つた。紀元前七世紀の頃アイオニヤが希臘に於て最も盛な商業地であつた。その證據には猶太が歐洲の中で最も早く貨幣が出来たのである。ミダスと云ふ王が金が欲しいと神に祈つた處が神がそれならばお前の觸れるものは何でも金にしてやると云はれた。翌朝目が醒めて寢臺にさはつたら直にこれが金になつた。かうして悉く觸れるものが皆金になつて遂に王女までも金になつた。之はお伽噺に過ぎないが、實際にあの地方に砂金が出たので、それを貨幣に造つたのである。それ以前は家畜を標準とし、之をペキニアルと云つた。ペキとはラテン語でベツクと云ふ事で牛の事である。牛は非常に尊ばれた。このベツクスが金の代りになつてゐたのであつ

たが、アイオニヤの商業が盛になり多島海シリヤ、サイブラスに至り、希臘人を破り、埃及に到り常に旅行を續けてゐたので、携帶に便なる爲にとて猶太の王が金を造つたのである。アイオニヤの南端に近い所のミリタスに、ターレストと云ふ學者が生れた。學者でまた商業家でもあつた。宇宙の根本は水であるを稱へまた幾何學上の或公理を發見し、ピラミットの影によりその高きをはかつた。アイオニヤでは商業の暇には旅行して埃及に到り、僧侶から學問を學んだ。そして從來の物に捉はれた觀察を打破して、新しい赤裸々になつて物を直視すると云ふ精神を得る、ターレストの態度も之で、此に知識的生活が起つて來た。支那も印度も早くから文明は起つたが、此精神は初は動かなかつた、それが動いたと云ふ事は人類の歴史上長く記念すべき事である。猶太に比較して希臘を輕んずる風があるがそれは不公平である。ユダヤとギリシャとの精神には矛盾はない、ヘリニズムとヘブライズムとは兩立するものである。紀元前六七世紀に亘つて獨創的精神が起り、猶太にも豫言者が現はれ國民の問題を取り扱ひ、猶太國民の道德的理想を支配した。キリストはそれから後をついで生れた。それより二百年前にプロアシタと云ふ人が生れ善惡二神について説き二元論を唱へた。同時に印度に釋迦が生れ佛教をとなへ支那に孔子老莊が出た。支那に何故に獨創的精神が動いたかといふことは夏殷周にわたつて、殊に周代に學校教育が發達し尙諸侯がさかんに教育を競争した。同時に實業の發達があつたらしい。しかし、經濟上の事については詳しくわからないから東洋史には不可解の點が多い。この背景がなくて實際の理解は出來ぬことである。東洋の歴史はギリシャのやうに、明かでないから斷定する事は出來ぬが日本の建國もこの時代であるかもしれない。神武天皇がその時代の御方かしらぬが世の諸民族のうちの獨創的精神が政治的に働いたものであらふ。この新しい事實を斷定するには材料が無い。

ギリシャに於て、うごいたのは商業がさかんとなり、生活に餘裕が出來さかんに旅行し、諸國の文明を比較することが出來たからとみねばならぬ。英國の黃金時代はエリサベスの時で、この時代シエクスピア、ミルトンの如き劇作家や詩人がおこつたのは一面文藝の復興によりコロンブスの新世界發見喜望峰の迂廻、ニウファウンドランドの發見等の結果いたる處で發表したことにより、その精神が藝術界に影響して傑作が出來た。

日本の現在の人は獨創的精神をもつてゐる、今までは日本の過去を自由に論じ得る時代はなかつた。日本の人種は複雑である。第一大和人種アイヌ、印度、支那マレイ等の人々が集つてゐるからいろ／＼の血がまじつてゐる。従つて複雑な事を理解することが出来る。世界において英國と日本程人種の多いものはない。日本の皇室がよくこれを統一された結果よく團結してゐる。

シベリアからウラル山脈を越へてゆくのに、ウラル山はうすい峠より低い。福島大將が私が小學生の時代に馬で横斷された。十年ばかり前に、サイベリアを横切つて露西亞にゆきイギリスに渡つた、アジアとヨーロッパの境に大きな石が立つてゐるといふので、これを見やうとして期待していたのに丁度夜中であつた。けれどもねまきの上に外套をきて立つて、一生懸命みていた。處が山を通るきが少しもしない。石があつたかも知らぬがみることは出來なかつた。私は左をみていたから右にあつたのかもしれない。

するうちに汽車が下り坂になつてしまつた。そこで在陵にすぎないと思つた。地理上アジアとヨーロッパをウラル山脈でたつのはよくない。ユーレジアンと稱する地續きの大陸である。シベリアから獨佛にかけては沙茫萬里の一平原である。昔から風と共に侵略者がゆく、かくして何萬年の間そこで發達したかわからぬ。

結局は英國にいつた。それで英國にはスコットランド、アイルランド、サクソン、チュートン人等がまじつた。そこで東は日本で、うちとまり、西は英國で止つた。これが今日世界文明上に日英の占める特別の位置である。大陸文明と日英の文明が豊なる所以である。故に日本の起源を神秘から不可思議なものにみなくともよい。この自覺が有力な原動力となつて獨創的精神が動くのである。その上海外に於いて高等教育を受けた婦人が、彼れの天明を見て歸つて來つゝある。故にどうしても動かねばならぬ。そうして現に動きつゝあるのである。近來、學界に於いて赤痢菌の發見があつた如く、日本人の中より獨創的精神が動いてゐるのである。日本現代の獨創的精神を刺戟すべき材料は萬々あるが、思つたほど發揮されないのは何故か。これは日本國民の生活から考へて見なければならぬ。日本國民の生活は世界より集まる材料を比較し實行し得るや否や、これは實際的な問題だ。學校家庭に亘つて考へてみなければならぬ。教育は學校ばかり行はれるものでない。私は學校教師は十八年やつてゐて古株だが、學校萬能論はこなへる氣になれぬ。家庭の人や宗教家や、神主などが協力せねば到底効果は上るものではない。改まつた儀式などの場所で養成される事が多い。例へば葬式にゆけば誰でも眞面目になる。其時に受入れる影響は無意識の内に大きい。葬式のみならず冠婚葬祭等の儀式は獨創的精神を養ふに足るものである。現代の結婚式は日比谷大神宮とか佛前結婚式とかある小數のものが基督教式にやつてゐる。日比谷結婚式には私も二度ばかり行つたが獨創的精神などはちつとも起らぬ。私は日比谷大神宮に於ける結婚式に對して反對するわけではないが、未だ改良の餘地があると思ふ。日比谷のは未だ良いとして、料理屋の二階の結婚式である。三々九度の盃の御酌を女中にさせる。料理屋の女中でも萬物の靈長だが、それにしても選擇すべきものである。無邪氣な少女でもあればよいが、料

理屋の女中には反對せざるを得ぬ、私の家では兩親祖父十二位迄はひいばまで丈夫であつたので結婚式のある度に酌をしてくれといふので、十位の頃に三四度もやつた事を記憶して居る。三々九度に對しては印象が深い。その禮式を私は仙臺が郷里だが小笠原流の何とかを先生を呼んで教はつた之には全然反對しない。反對した所でやめられるものでもないから。それはよいとして學校の先生や村で位地のある人とかいふ多少教育のある人達を選んで、結婚に關する教訓でも讀んで、その前で盃でもして誓をたてるならまだ獨創的だ。それをやらぬのは何だかものたりない。人生はいかなる時も教育家から見れば教育の時季である。然るに結婚式がすんでまでも媒酌人が主となつて飲食して馬鹿騒ぎをする。それもよいが東西古今の教訓でもよむかその晩は打きつて改めて次の日に無禮講をする様に境をつけることが必要である。葬式も和歌山地方では死んだ人にむかつて懺悔をせよとて頭を坊主にして、それから後初めて何々居士として之を葬る、葬るにも小さい鍬で土をほるまねうめるまねをして後に埋葬する。一つの芝居である。釋迦はこんな事を教へない。之より人間の心を清くし涅槃に入るといふ事が肝要だと教へた生きてゐるうち心を清くせず死んでから剃をあてたり坊主になつたりしても、何の役にもたゝぬ。葬式に於て履歷をよまぬものがある。苟も人間である以上多少何かの仕事はして居る。それを誰の子が、どんな經歴を踏んで來たか、如何なる病氣で死んだか位を來會者に知らせぬ法はない。それをしないのは死人を侮辱したものである。之も改革の餘地がある。神道の儀式も三寶が多すぎる。あれは餘り死人を物質化するものだ。死んでからなご何をあげてくれてもやくにたゝぬそれより生きてゐるうちに大切にしてくれた方がよい。祭文もよいがまるで人間を神にしてしまつて居る。人間には長所ばかりあるものでない、幾らかの短所はもつて居る。むしろ正直に書いた方がよい。も少

し冠婚葬祭の儀式を改良して、徹底的に獨創的精神を働かせる様にしたいものである。

生活問題は如何。第一金持にならなければならぬ。もし餘裕ある生活が出来ればならぬ。我々が西洋にゆくと、向ふの大學の教師が、我々を招待して盛な御馳走をする。故に彼等がこちらに來た時には我々も饗應する位な餘裕ある生活をして居たいものである。教師の薄給を憤慨するわけではないが、もう少し多くの手當をうけるのが當然だ。朝から晩まで働いてきつまつた生活をしてゐたのでは、獨創的氣分などは到底起らぬ。今多く道路に敷石の代りにコンクリートを用ひられる。佛蘭西にもモニエルといふ園丁があつて植木鉢をおとして鉢が割れる、割れないものをつくりたいと考へて色々、居たがついには仕事をやすんでも考へた。そしてつひに針金で網をこしらへその中にセメントをぬりこんだ。それをかはかしたらおとしも割れぬ。これを仲間に見せたら羨しがつて形がわるいといふので憤慨して植木屋をやめてしまつて、今度はコンクリートの橋をこしらへた。これが世界一のコンクリートの起りである。暇のないものに獨創的も何もあつたものではない、あんなものにも餘裕があつたからこそ考へ出したのである。私等は一週間に多い時は二十何時間今でも十五六時間をもつて居る。近頃來朝したデューエ博士はコロンビア大學の教授であつた大學は六千何百萬圓の基本金がある。その上年々百二十萬圓位の寄附金があり、授業料をとつて居る。だから教師の俸給も豊で、生活に餘裕が出来てくる。その上休みがある。星學者フアーネス女史は六年働らくと次の年一年が休みなのでこれを利用して今日日本に來てゐるのである、宣教師にもかゝる休みがある故に七年目には本國にかへつたり休養したりすることが出来る。日本にはこんなことはない。日本の様なせちが

らい生活をしてゐては到底發達する見込かない。家庭の婦人は何をして居るか、朝は暗いうちから起きて飯焚き洗濯裁縫子供のより一切合切やつてゐるから疲切つて居る。その上、座つてゐるから一層疲れる。腰かけて脊をもたせる事は大變力の經濟になる、樂に仕事の出来るすが俄には出来ないとしてもほしいものである。昨夜も米人と集つた時、デューエ博士が日本には腰の曲つた人の多いのは如何なる譯かと尋ねたこれは封建時代の人の上のものに土下座した習慣から、今でも家庭に於て無暗にかしこまらせる。然るに今日軍隊では眞直にさせる。二年の兵役を終へて家にかへるとまた前屈みに拜みだはしにされる。こゝに大なる矛盾がある。人の家に使はれてゐる女中は、年に二度の數入の外は、朝は早くから夜は遅くまで働いてゐるから、疲勞しきつてしまつて落着いて讀書をするひまもなければ、考へる暇もないから、顔にごこかボカンと抜けた所がある。この間婦人畫報の雜誌記者が來て、強制的に英國の婦人の話をさせられてしまつた。考へて見るのに英國婦人の中には、聰明な顔の女が多い、佛蘭西や伊太利の女の様に婀娜つばいのは少いが、氣品の備つたものが多いのである。これは中流以上に多いばかりでなく倫敦の町にある、A B Cとかライラン等といふ安つばい料理屋に居る女中にも居るのである。或は停車場のウエートレスにも工業地に行つてラシヤを織る工女の中にも上品なのが居る。之は何故であるか、彼等人種の祖先が品行方正で體育を盛にし金があつたために生活に餘裕があつてこせ／＼せずに考へたり多少研究讀書をする暇があつたから、自然落着いた氣品が生じたのである。英國の日曜日は日本の元日の様なものである。つまり七日目毎に元日がある譯だ。所が日本の元日は今でも行はれては居るが、商買屋などでも買ひにゆけば賣てくれる。元日から商買をせねば生活がたゝぬ位せちからなくなつてゐるのである。英國では日曜日には、商は勿論やめる郵便も來な

い。オックスフォードでは朝暗い中に一度来るきりで後は来ぬ。馬車も午後二時からしか動かない新聞社では有名な新聞は皆休む、サンデーペーパーがある丈で、然もそれは労働社會のやうな下等社會に向つたものである。實にゆつたりしてゐる。男は教會にゆかねば朝寢をする。小兒は日曜學校にゆく、女は教會にゆく午後からは女中をも解放する。女中は多くアイルランド人で、ローマ教を信仰してゐるから天主教會にゆく。人間がのんびりする。従つて良い考が出るのである。カナダの宣教師が英國の家庭は城廓の如しと評してゐる。ここに食堂は丈夫な木材で造り、腰掛は革だ。そこで三度の食事もし話もする。日曜の午後、雨が降れば週間雜誌を読む、詩を読む。私は嘗て貧民屈に二週間ゐたが、そんな處にビアナがある。一週間で拂ふ週賦で借りてゐる。そして本箱があり、サツカリ、セエクスピア等の小説バイブル等がある。外に出なければそれ等を読んでゐる。ゆとりが出来来るから又月曜日からは働ける。向ふの教會は立派なものだ、ロシアでもそのニコライどころではない。私が歸朝した時には飾りが少ないのに驚いた。ネバ河に沿うた大通にある教會は實に華麗なものだ。特にローマのセントピータース寺院は今なら一億圓位かゝる。美に美をつくし端から端を見ると人がかすんで見える。ゴシック式の石柱が林のやうだ。彫刻が二千餘も飾つてあり階上にはバイブオーガンがある。倫敦でキャンピルが説教した時には、千五百人位入つて來た。十一時から説教に十時頃から押寄せて一町位續いて待つてゐる。巡査がそれを一々世話をして居る。説教もよいがまた音樂が非常によい。男も女も義勇兵もあり、皆白い袈裟をつけて一所に歌ふ。その音樂をきいただけでもよい。日本ならば偶に音樂學校に開かれる音樂會に、入場券をもとめて行かなければきかれない様な音樂に向ふでは日曜毎に聞かれる、大説教家の説教は人生の生きた問題を論じ、日本の様にありがたいとか南無阿

彌陀佛とか抹香臭いことは論せぬ。しかもオックスフォードでは、所々の寺院で説教があるので、都合よくゆくと一日に十一回は別な説教がきかれるといふ。學生も十五分位をチャペルで冥想する。十一時からバイブオーガンを弾く。人が死んだ時などはメンデルソンの死の曲をひく。會衆一同が起立冥目してそれを聞く。ゴシック風の大きい會堂の中に洋々としてその聲が彌漲る。夜八時半から九時まで三十分間大學で説教家が學生に宗教的説教をする。それがすむと千人位の男が勇ましい讚美歌を歌ふ。二十分位國勢問題等を論じて涙をこぼして感激する。總てが藝術的である、九時からはブラーニングの出た、カレッツの食堂では音樂會がひらかれて音樂家がわざ／＼來て學生に音樂をさかせる。それがすむとバイブオーガンにあはせて讚美歌を歌ひ寄宿にかへつて眠る。靈感的な藝術の日を繰返へして居るから人間は高尚にならざるを得ぬ、宗教的信念をとほして吾人の心靈に訴へることが日本にはない。日本には君ヶ代の外に國民を激勵するマルセーユとかロートブルターの如き國歌があつて欲しい。かゝる餘裕が日本社會にある様にしたい。それには日本の休日を一統する必要が起つて來る。田舎の農家では一日十五日二十八日と休む。東京の工場では一日と十五日に休む。一日に休むといふのは月崇拜觀念から來てゐるので十五日は七月十五日の盂蘭盆の習慣が残つてゐるのである。盆の十五日に休むからといつて外の十五日に休む必要はない西洋の日曜はバビロン人が六日働いて七日目に休むといふ習慣から來てゐるのである。それから基督教では基督が日曜に復活したので日曜日を安息日として休む。猶太教では土曜日マホメット教徒は金曜日を安息日として居る。日本の役所では一六の日にやすんだ。しかるに月給を出す上から打算して七曜制度を採用した。今日の文明國民、日本の學校官署會社等は皆、日曜を休むのだから之をすべてに及ぼして農民も工場も日曜日には休ませ

て、徹底的に休養させなければならぬ。これでなければ餘裕ある生活は出来ぬ。日本では日曜に來客が多くて困る。も少しこの點を改良しないと日本人は頭を亂用しすぎることになる、聖書にも神は我さけ所なりといふ事がある、私は日曜になると子供を引きつれて教會にゆくから家を留守にする、客もこの頃は留守を知つて餘り來なくなつた、何も客を排斥する譯ではないが、日曜日位は心を宇宙にとばせてゆつくり思索に耽りたい。之は大問題だ、之に氣のついて居る人は少い。氣がついても、意見を發表しないのである。休日を一し、日曜は日本國民の安息日とし、體育日とし、精神教育の日とし、寺でも社でも説教をする様になつたらよからう。神社佛閣で賽錢をとる許りが能ではない。神主は夫婦喧嘩の中に飛込んで仲裁する位でなければならぬ。それが生きた教育だ、前にもいつた様に教師ばかりが教育家ではない。説教は地獄極樂を説くばかりぢやない、地獄極樂等は迷信だ。あれば生きて居るうちにあるのだ。廣島から來てゐる雑誌記者が母が出て來たが、地獄極樂で夢中になつてゐるには困ると云つてゐた。その人は山の手に住んで居るのだが貨車のゴロ／＼通る音がすると、地獄で車を通る音もあんな風だらうと南無阿彌陀佛を唱へて只管に拜み出すさうだ。地獄極樂などを考へるより孫でも立派に育てることを考へて貰ひ度い、釋尊の眞理は吾人の心を清くするといふ事であつて念佛でも何でもそれに達する方便にすぎぬ、念佛などは何といつてもよい、精神統一の方便にすぎないのだから南無女子高等師範學校と唱へても差支はない、諸君には是非人生問題宗教問題を徹底的に考へて頂かねばならぬ。最後に吾人の人生觀念を加減する必要がある、一方に於て餘裕ある生活をして居ないから、獨創的精神を養ふといふことは困難である。しかし獨創的精神は天地萬有の根本より湧き溢れ出て出るもの、信じねばならぬ。基督教の神を何と考へてゐるか。雲の上の大男の如く考へてゐるのは迷信だ、人格的の神と

は人格をとほして考へる宇宙根本の生命である。宇宙根本には生命があり、吾人にも小さな生命がある。宇宙の根本には力があり、愛があり、同情がある、宇宙の根本にそれがなければ吾人にそれがあらはれる筈がないのである。友の死を悲しむ涙は、宇宙根本に愛の涙があり、それが我々をとほしてあらはれるのである。一切の問題はよく進歩的に來なければならぬ。人の中に宇宙の根本より流れ出してゐる生命を引き出すために教育するのである。宇宙根本の獨創的精神を吾々は引出さねばならぬ。吾人の生命は吾が心の中にひそむ。天地の大生命より流れ出でたる生命を完全にあらはす所に我々の生きてゐる目的がある。吾人は國家のためにばかり生きてゐるのではない。宇宙萬有のために家のために、社會のために生きて居るのである。それを知らずに宗教は迷信とし、たとひ信じてゐても神や佛を曲解して居てはならぬ。儒教の天を信じてよい、眞を信じて神を信じてよい、佛を信じてよい、それが天地の獨創的氣分があるものと信じてゐなければ獨創的精神は起らぬ。今日教育界で宗教を遠けるが既成宗教は排斥しても、大生命を中心としたる宗教を離れてはならぬ。また佛教では日蓮宗ばかりが眞理であるとか、儒教が眞理であるとかいふ様に偏見してはならぬ。

たとへば皆さんは種々の信仰を持つてゐるでせう。けれど、祈りの時アーメンといふとか南無阿彌陀佛といふ位の形式が違ふ丈で大根本は同じである。しかるに形式のみに關ると頑固な迷信に陥る。處女誕生なんといふのは迷信である。斷じて處女誕生などはない。それで自分は基督教會から除籍されたけれど、眞理は眞理である。我一人になつても眞理は主張せねばならぬ。

こゝは女の大學である、自分も不完全ながら大學に居るものである。大學は學說に自由なものである。國家より眞理を奉すべきである。眞理は一切の宗教に存してゐる。日蓮にも親鸞にも基督にもボーロにもある。

大學は總ての宗教の眞理を照會しなければならぬ。謙遜を以て眞理を傳へねばならぬ。自分は大學の教育家の精神を持つて信仰を説く、自分のいふ事は水のやうである。けれど水はど良い物は無い。水の如く効果を與へる精神が教育界に普及したならば日本の教育界はもつと獨創的になるであらう。日本の教育界は敬といふ言葉に捕れてゐる。むしろ敬といふ形式に捕れすぎてゐる。ある中學校のことであるが丁度修身の授業中に參觀した人があつた。で、生徒がちよい／＼其參觀人を見ると後に控へて居た体操の先生が、何に、何に、とその生徒の名を呼んだと云ふことだ。こんな事でどうして獨創的精神が起るでせうか、頑固な先輩で演説をして聴衆が笑ふと怒る人なんかある。有名な名士が壇に立つて演説を始めようとした時急に便所にいつたので生徒が笑ふと名士が怒つて、全體校長の監督が悪いといふのでその學校の校長の首を切つてしまつた。その校長は今私立學校を經營してゐるやうである。すいぶん氣の毒な話で。演説をする前に急に便所に行くなんて私だつて笑ひますよ。生徒が笑ふのはあたりまで、喜怒哀樂の情を抑へる事はいけない。表現の精神を養はねばならぬ。黙つていてはいけない。國際聯盟の談判にも牧野さんも何かいつて居られる。李太王も崩御されたが朝鮮の葬式のやうにわ／＼泣くのもある。ある程度まで人間は喜ばねばならぬ。悲しまねばならぬ。喜怒哀樂の情があるから人間いき／＼してくるのである。教育界が努力してゐるに關らず、割合に振はぬはあまり形式にとらはれすぎてゐるからではあるまいか、もうすこし自由を與へ表現の氣分を與へたなら、もうすこし効果があるかも知れない。

しかし之をどうするかは私に取つても未だわからぬ事で暇さへあれば考へてゐる事であるが、今はその一端を述べたに過ぎない。けれど皆さんと趣味や性格や境遇の變つた私が何か御參考になる事を述べたとすれば、甚だ幸な事である。

終にのぞんで更に婦人に考へて戴きたい事は、婦人は母になるものであるが、日本の將來の男子をして獨創的精神を盛にしようとするには、その保姆地は女子である。故に男女の教育は平行しなければならぬ。かかるに今日日本の女子教育は虐待されてゐる。どうしても女子の高等教育を盛にしなければならぬ。米國は女子の大學生が七萬餘にも及んでゐる。英國でもどんな教會に行つても男子より女子の方が多い。どこにも女子があるからその社會に光澤があるのである。けれど日本は男子ばかりである。どこの社會でも男女より集つてゐるもので、男ばかりではないけぬ。女ばかりでもないけぬ。男の刺戟によつて女も發達しなければならぬ之結婚する事の必要なわけである。獨逸など戰時中でも六千餘人の女子大學生がある。日本などお話にならぬ。二人や三人ではないけぬ。あなたの方の中でも。大學の門戸開放をせまるなり、留學するなりして大いに發展しては如何。獨身生活をして日本女子教育界の爲に犠牲になる覺悟を持つてすすむべきである。早稲田でも將來女子を容れて男女共學にしようといふ話もある位であるが、今の所生徒が多くてとても出來ないが、今に官立の大學が増して、生徒が少くなつたら、大いにしようと思つてゐる。私は日本の女子高等教育に特別の興味を持つてゐるものである。こゝで長時間の話をお詫びして壇を下りよう。(文責在記者)